



生みの親といっしょに
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして
わたしを 見つめて
わたしを 聞いて
わたしを 呼んで

〔私たちの年間五行事の持つ意味を考える〕
～日々の生活(暮らし)を楽しみながら 生きるを学ぶ～

私たち(社福)童心会の人間教育を見つめ直してみると、その中心にある哲学(Philosophy)は、私の経験などから築き上げた人生観・世界観、また生活全体を貫く基本的な考え方や思想と脳神経科学などの科学的エビデンス(根拠)に裏打ちされた人間科学を取り入れた人間学的人間教育を追求しようとしています。

私たちの目指す人間教育の原理・原則(根本にあるきまり)は～日々の生活を楽しみながら生きるを学ぶ～ になりました。

私たちの保育・幼児教育の世界では毎日のスケジュールをDaily program(日々の計画・予定・日案)と言っています。

私たち童心会ではそれをDaily work(日々働く・勉強する・仕事)に変えました。

なぜなら私たちのアクティブ・ラーニング(活発な学び)は

日本の文部科学省が考える主体的・対話的で豊かな学びではなく

「一人ひとりが自ら課題を持って、自ら学び、自ら考え、一日一生を生きる」としているからです。

だから生きるということは一日一生の真剣勝負なのです。

私たちの「生涯学習(Long life learning)・生涯教育(Long life education)」は生れてから死を迎えるまでの一生を学びの場としています。

そして日々の生活学習は、朝起きて夜を迎え、

また朝を迎えるまでの一日24時間の生活時間を共有することが学びの場になるのです。

だから家庭教育と私たちの人間教育は24時間の生活時間を共有しなければいけないのです。

そして私たちの保育目標は「思いやりと生きる力」になったのです。

”思いやりは慈悲”(全てのものの喜びや悲しみに寄り添う心)なのです。

人の持つやさしさは日々の暮らしの中で

「愛された育ちとだしめ言葉」をたくさん味わってこそ育まれるものであると思っています。



笑ったかす一番
遊んだかす一番

だっこされたかす一番
でかけたかす一番

やさしくされたかす一番
チャレンジしたかす一番



E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 勲



そして「生きる力＝智慧＝実人生を生きる力」は(社福)童心会の年間五大大行事を通して育まれていくのです。

私たち(社福)童心会のイベントである「親子運動会」がようやく終わりました。

昔の運動会は私たちが求めている「地域コミュニティ創り・村創り」そのもの大運動会だったので。三世代にわたる家族総出でご近所の方たちとお弁当やお惣菜が飛び交う一大社交場になっていたのです。そのような姿を忘れずに思い浮かべ、現在の私たちの運動会のねらいは”村創りと人創り”になりました。

(社福)童心会の「生きる力」を育むための三つの訓えは

「がんばること(体の力)・つづけること(学ぶ力)・がまんすること(心の力)」を身につけることです。

そしてこの行事のねらいは「やる気(意欲)・げん気(気力)・ほん気(意欲)が生れた運動会」にすることでした。

次に12月の「X'mas生活発表会」は、保育から人間教育へと変革する「Smart learning(賢明な学び)」を通して身につけた総合的生活学習の成果を発表し、「ヒトの学び」は「五感を刺激する0歳からの人間教育」であることを実証するための発表会なのです。

園内保育活動、家庭教育を通して学び続けたことを表現する

Smart learning(スマートラーニング・賢明なる学び)の発表の場でもあります。

見て倣い、観せて学び、聞いて考え、聴かせて習う”ヒト創り”のためにあるのです。

そして”夏まつり”は私たちの願いでもあります「保育所からはじめる地域コミュニティ創り」を目指しています。

私たちが一心に願う”村づくり”なのです。今子育ては家族、夫婦だけでするものではありません。

新しい考え方ではSocial alo mothering(社会的養育)であり、昔の子育てなのです。

1960年代後半から若年夫婦に求められた核家族化は、次第に血縁・地縁・社縁との関わりも失い孤立化した子育てを余儀なくされ育児不安症候群が増えたのです。

そして、不適切な養育家庭が今の不登校、いじめ、虐待、ひきこもりなどの社会問題につながっているのです。だから私たちの「保育所からはじめる地域コミュニティ創り」が始まったのです。

あと2つの行事は「お泊まり保育」と「マラソン記録会」です。

詳しくは別の機会にお話しさせていただきますが、簡単にお話しますと

「お泊まり保育」は”ひとりで生きる”人間として生きる自立の旅立ちへの誘(いざな)いなのです。

「マラソン記録会」は毎日のマラソン練習の成果発表と記録へのチャレンジ・自分との闘いの歴史的ドキュメントなのです。

0歳児さんは”這えば立て、立てば歩め”が親の願いであり、成長の証なのですが、

(社福)童心会ではばら組(0歳児)さん全員、全ての園のばら組さんたちが

“這えば立て、立てば歩め、歩めば走る!”なのです。全ての子が走るのです。

「ヒトの賢明なる学び」は0歳児からの五感の刺激から始まっていることを新しい脳科学は実証しているのです。改めて「人の成り立ち」を考えてみた時、この科学的エビデンスを抜きにして実践していくことはできません。

私たちがヒト(ホモ・サピエンス)として環境に適応して生きるためには

「体・心・脳」を活用しながらヒトとの関わりの中で助けあって生きていくことなのです。

1. 体(体を動かせ)＝五感で感じる＝体を動かして感じ、学ぶ
2. 心(心を動かせ)＝五感でつつむ＝ふれあいと見まもり＝愛された育ち
3. 脳(ヒトを動かせ)＝五感でだきしめる＝カンガルー・ケア＝だきしめ言葉

これからも私たち(社福)童心会は、私たちの道しるべにあるWell-being(幸せになろうよ！幸せになろうね！)に新しい科学を取り入れた新しい時代の人間学的人間教育として皆さんと共に創造していきたいと願っています。

これからも ご協力下さい。

令和4年 11月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲

※ 童心会だよりはホームページ上でご覧になれます。
理事長の部屋【<http://doushinkai.jp/message/>】